

令和5年度

SYLLABUS

～ Approach to Studying ～

1年 看護科



香川県立高松南高等学校

はじめに

皆さんは、マンガを読みますか？テレビやパソコンでゲームをしますか？

マンガやゲームが生活に深く根付いている今、マンガを読んだことやゲームをしたことのない人を捜すのは至難の業でしょう。中には、自分の時間のほとんどを、マンガやゲームに費やす人もいたりして…。

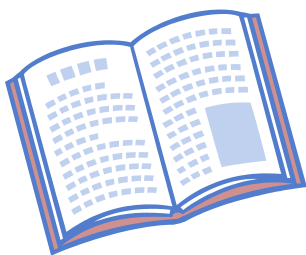
ところで、なぜ、マンガを読んだりゲームをしたりするのか考えたことがありますか。何人かの生徒に聞いてみると、「面白いから」とか「ストレス解消」という答えが返ってきました。しかし「なぜ、そんなことを聞くのか」と、逆に質問されてしまいました。楽しいことに対して「なぜそれをするのか」と聞くことが、そもそも不思議だったようです。

では、勉強についてはどうでしょう。「なぜ勉強しなければいけないのか」、「こんな勉強をして何になるのか」。そう思ったことはありませんか。この質問にズバリ答えるのはとても難しいことです。考古学者の平賀・キートン・太一氏は、閉鎖されるパリのシモンズ社会人学校の冬季セミナー最後の講義で、「人間は一生学び続けるべきです。人間には好奇心、知る喜びがある。肩書きや、出世して大臣になるために学ぶのではない。それが人間の使命だからです。」と本質的理由を受講生に語っています。少し考えてみても、テストに出る、成績が上がるとお小遣いも上がるなどの外発的理由や、将来の仕事に役立つ、分かれると充実感があるなどの内発的理由まで様々でしょう。

シラバス (Syllabus) の語源はギリシャ語の「Sittuba」で、元々は羊皮紙製の書籍ラベルのこと。明治時代には「教授要目」などと訳されていたようです。ページをめくっていただければお分かりのように、本校のシラバスは、科目の概要や学習目標、授業計画、学習方法など、履修や選択するために必要な情報をコンパクトにまとめています。

高等学校での学習の基本は「授業」。もちろん家庭学習も大切ですが、毎日の「授業」をないがしろにして、家庭学習は成立しません。

折に触れ、シラバスのページをめくってください。きっと、授業を通して何をどう学ぶのかを考える手助けになるはずです。



参考文献：『開かれた学びへの出発』市川伸一（金子書房）

『MASTER キートン』勝鹿北星（小学館）

看護科

◎科の目標

- ・高校3年間と専攻科2年間を合わせた5年一貫教育による看護師の養成を目指します。
- ・「基礎看護」「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「成人看護」「看護臨地実習」等の看護科専門科目を学習します。

◎資格取得、進路

- ・日本赤十字社救急法救護員修了証
- ・本校専攻科、大学などへの進学

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年	現代の 国語	言語 文化	公共		数学Ⅰ	生物 基礎	化学 基礎	体育	芸術 Ⅰ	英語コミュ ニケーションⅠ	家庭 基礎	基礎看護	人体の構 造と機能	疾病の成 り立ちと回 復の促進	看護 情報	L H R																
2年	文学 国語	地理 総合	数学A	物理 基礎	生物 基礎	化学	体育	英語コ ミュニ ケーションⅡ	論理・ 表現Ⅰ	基礎看護	造人体 の機能	立 ち の 促 進	疾 病 の 成 り 回 復	社会保 障制度 と	成人 看護	老年 看護	看護臨 地実習	L H R														
3年	文学 国語	歴史 総合	化学	物理 基礎	体育	英語コ ミュニ ケーションⅡ	基礎 看護	立 ち の 促 進	疾 病 の 成 り 回 復	成人 看護	小児 看護	母性 看護	在宅 看護	保健 統計	看護臨 地実習	L H R																

目 標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方など、学んだことの80%以上理解できる。	○他者を意識して話す、聞く、書く、読むことができる。 ○他の考えと自分の考えを比較できる。 ○他の考えと自分の考えを比較した文章が書ける。	○自ら、言葉（話す・書く）を使って他者に関わろうという強い意欲がある。 ○将来・人生・生活などに学んだ内容を結び付けて考えようという意欲がある。 ○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方などを、理解しようとする強い意欲がある。
ステップ	○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方など、学んだことの65%以上(80%未満)理解できる。	○自分の伝えたいことを、まとめたり、伝えたりできる。 ○他者の考えをまとめられる。他者の考えを理解できる。	○言葉（話す・書く）を使って他者に関わろうという意欲がある。 ○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方などを、理解しようとする意欲がある。
ホップ	○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方など、学んだことの40%以上(65%未満)理解できる。	○自分の伝えたいことを、ある程度まとめたり、伝えたりできる。 ○他者の考えをある程度まとめたり、理解したりできる。	○言葉（話す・書く）を使って他者に関わろうとしている。 ○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方などを、理解しようとしている。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「現代の国語」（大修館書店）

副教材 「学習ノート」（大修館書店） 「新版六訂カラー版 新国語便覧」（第一学習社）
「漢字の学習」（香川県高等学校国語教育研究会）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

	単元名・学習内容
1 学期	●「考える」ことの重要性を学ぶ 1、明日をひらく ●自分の考えを的確に伝える（話す・聞く）（書く）（伝わるように話す・わかりやすく書く） 3、的確に伝える 4、意見を示す
2 学期	●情報を的確にとらえる（読む） 2、要点をつかむ 5、論理をとらえる 9、情報を比較する 11、主張を吟味する ●情報に対する意見を伝える（書く）（話す・聞く） 6、魅力的に伝える 7、資料を駆使する
3 学期	●他者を意識して考え、また、他者を意識して自分の考えを伝える（書く）（話す・聞く）（読む） 8.他者と交流する 10.他者を動かす 12.考えを発信する

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習として、教科書を読んで、わからないところを発見しておく。
- ・「聞く・話す」、「書く」、「読む」のそれぞれの力について、自分の課題やできるようになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・板書を写し取るだけでなく、自分の考えや感想、疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、自分で工夫をしたノート作りをする。
- ・提出物は丁寧に仕上げて、期限を守って提出する。
- ・読書を習慣化するなど、日常生活の中に「読む・書く・話す・聞く」を積極的に取り入れる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・感想 ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題	・ノート ・振り返りシート ・感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	高校での国語の学習の基本となる科目です。3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目 標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関する事など、学んだことの80%以上理解できる。	○作品の背景や他の作品などとの関係を踏まえて、作品を解釈したり、評価したりできる。(読む) ○自ら題材を決め、他者を意識して表現することができる。(書く)	○言葉の特徴や使い方、言語文化に強い興味や関心を持ち、理解しようとする強い意欲がある。 ○自ら言葉(話す・書く)を使って他者に関わろうという強い意欲がある。
ステップ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関する事など、学んだことの65%以上(80%未満)理解できる。	○作品そのものの内容を解釈したり、評価したりできる。(読む) ○自分の伝えたいことを、まとめたり、伝えたりできる。(書く)	○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持ち、理解しようとする意欲がある。 ○言葉(話す・書く)を使って他者に関わろうという意欲がある。
ホップ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関する事など、学んだことの40%以上(65%未満)理解できる。	○教師等による解説や助力を頼りに、作品そのものの内容がある程度解釈したり、評価したりできる。(読む) ○自分の伝えたいことを、ある程度まとめたり、伝えたりできる。(書く)	○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持とうとし、理解しようとしている。 ○言葉(話す・書く)を使って他者に関わろうとしている。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「言語文化」（大修館書店）

副教材 「学習ノート」（大修館書店） 「新版六訂カラー版 新国語便覧」（第一学習社）

「古典文法クリアノート」（尚文出版） 「漢字の学習」（香川県高等学校国語教育研究会）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

	単元名・学習内容
1 学期	●言語文化への視点を持つ 世界を見渡す窓（現代文） 等 ●考えを表す言葉の変遷を学ぶ 論語（漢文） 徒然草（古文） 随筆（現代文） 等
2 学期	●物語を表す言葉の変遷を学ぶ 故事成語（漢文） 物語（古文） 小説（現代文） 等
3 学期	●想いを表す言葉の変遷を学ぶ 漢詩（漢文） 和歌（古文） 短歌・俳句・詩（現代文） 等

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習として、教科書を読んで、わからないところを発見しておく。
- ・「聞く・話す」、「書く」、「読む」のそれぞれの力について、自分の課題やできるようになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・板書を写し取るだけでなく、自分の考えや感想、疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、自分で工夫をしたノート作りをする。
- ・提出物は丁寧に仕上げて、期限を守って提出する。
- ・読書を習慣化するなど、日常生活の中に「読む・書く・話す・聞く」を積極的に取り入れる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・感想 ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題	・ノート ・振り返りシート ・感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	高校での国語の学習の基本となる科目です。3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目 標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵かん養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
観点別：A	公民的な知識・技能を活用して、現実社会の諸課題の解決に向けて主体的に取り組んでいる。		
ジャンプ 評価：5	○倫理、政治、経済などに関わる概念や理論を、現代の諸課題と結びつけながら深く理解している。 ○諸資料を基に必要な情報を、倫理的、政治的、経済的、法的な視点から効果的に収集し、読み取ることができる。 ○収集した情報と、授業で学んだ考え方や基本的原理とを結びつけて適切な方法でまとめることができる。	○授業で学んだ見方・考え方を活用して、現代の諸課題について、他者と協力しながら深く考えることができる。 ○課題の解決に向けて深く議論することができる。 ○学習テーマにおける問題を明らかにし、自分の考えを分かりやすく文章で表現することができる。	○日常生活や他教科で学んでいることと関連付けて考えている。 ○常に創意工夫し、課題の解決に向けて取り組んでいる。 ○主権者としての自覚をもち、自分の人生との関わりを意識しながら学習に取り組んでいる。 ○常に学習態度が主体的・対話的であり、より深く学び続けようとしている。
観点別：A	公民的な知識・技能を踏まえて現実社会の諸課題の解決に向けて取り組んでいる。		
ステップ 評価：4	○倫理、政治、経済などに関わる概念や理論を、現代の諸課題と結びつけながら理解している。 ○諸資料を基に必要な情報を、倫理的、政治的、経済的、法的な視点から収集し、読み取ることができる。 ○収集した情報と、授業で学んだ考え方や基本的原理とを結びつけてまとめることができる。	○授業で学んだ見方・考え方を活用して、現代の諸課題について、他者と協力しながら考えることができる。 ○課題の解決に向けて議論することができる。 ○学習テーマにおける問題を明らかにし、自分の考えを文章で表現することができる。	○身の回りの生活と関連付けて学ぼうとしている。 ○学び方や取り組み方を改善し、学び続けようとする。 ○主権者としての自覚をもち、自分の進路目標との関わりを意識しながら学習に取り組むことができる。 ○学習態度が主体的・対話的で学び続けようとしている。
観点別：B	現実社会の諸課題の解決に向けて取り組んでいる。		
ホップ	○倫理、政治、経済などに関わる基礎的基本的な概念や理論を	○授業で学んだ見方・考え方を活用して、現代の諸課題について	○基礎的・基本的な知識・技術や考察力を身につけようと

理解している。 ○諸資料から、情報を収集し、読み取ることができる。 ○収集した情報をまとめることができる。	考えることができる。 ○教師の助力があれば、課題の解決に向けて議論することができる。 ○学習テーマに対する自分の考えを文章で表現することができる。	している。 ○学習内容をさらに理解するために学び方を改善しようとする。 ○教師の助力があれば進路実現に向け、学習に取り組むことができる。 ○学習態度が主体的で、提出物などを期日までに自分の力でやりきることができる。
---	---	--

■何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「高等学校 新公共」 第一学習社

副教材 「最新公共資料集 2022」 第一学習社 ， 「新公共ノート」 第一学習社

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

	単元名・学習内容
1 学期	第 1 編 公共の扉 第 1 章 公共的な空間をつくる私たち 第 2 章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第 3 章 公共的な空間における基本的原理
2 学期	第 2 編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第 1 章 法的な主体となる私たち 第 2 章 政治的な主体となる私たち
3 学期	第 3 章 経済的な主体となる私たち 第 3 編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち 地球環境問題 生命倫理 国際社会の課題 資源・エネルギー問題 情報化社会

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業を大切に毎時間の内容を理解できるよう努力するとともに、ただ黒板を写すだけではなく、工夫をして自分なりのノートをつくる。
- ・授業中に疑問に思ったことは質問したり、自分で資料集・参考書やインターネット等を使って調べたりしてさらに理解を深める。
- ・グループ活動に積極的に参加し、他者と協力しながら課題を解決する姿勢を身に着ける。
- ・授業を通して理解したことやできるようになったことを振り返る習慣をつける。
- ・普段から新聞・テレビ等のニュースを見るようにして、授業で学習したことを踏まえて、社会で起きている出来事について考察したり、自分の考えをまとめたりする習慣をつける。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート	・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
ジャンプ	○公式・法則，用語などを理解し，導くことができる。 ○副教材の応用問題の解法を理解している。	○十分に数理的に考察する力を付けている。 ○応用問題の解法を自分の言葉で表現し，記述できる。	○問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 ○副教材の応用問題に積極的に取り組む。
ステップ	○基本的な概念，原理・法則，用語・記などを理解している。 ○副教材の基本的な内容をおおむね理解している。	○おおよその数理的に考察する力を付けている。 ○基本問題の解法を自分の言葉で表現し，記述できる。	○教科書で学んだ範囲に対し，副教材で復習を行う。 ○提出課題等，計画的に行っている。



ホ
ッ
プ

○数学用語を理解し、教師の説明を受けたり、例題を参考にしたりしながらの練習問題に取り組む。

○教師の説明を参考にし、公式
成立の理由を理解しようと努
める。

○板書を写すだけでなく、教師の説明をメモするなど自分のノートを作る。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 改訂版「新編 数学Ⅰ」 数研出版

副教材 改訂版3TRIAL 数学I 数研出版

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

	単元名・学習内容		
1 学 期	1章 数と式 1節 式の計算 2章 集合と論証 1節 集合	2節 実数 2節 命題と論証	3節 1次不等式
2 学 期	3章 2次関数 1節 2次関数とそのグラフ	2節 2次方程式と2次不等式	
3 学 期	4章 図形と計量 1節 鋭角の三角比 5章 データの分析 1節 データの整理と分析	2節 三角比の拡張 2節 データの相関	3節 三角形への応用

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習 教科書を読み、疑問点をチェックする。
- ・授業 積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に質問する、あるいは休み時間などを利用して先生に質問するなどして早めに解決する。
- ・復習 教科書の問題や問題集を解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、応用問題にもチャレンジするようにする。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・小テスト ・定期考査 ・レポート ・長期休業中の課題	・ノート ・学習活動への取り組み ・宿題 ・長期休業中の課題
重みづけ	2 2 1		
	数学の学習の基礎となる基本的な「知識・技能」と「思考・判断・表現」の確実な習得を図るために、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目 標

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
シ ャ ン プ	○物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則について深く理解し、自然の物事・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点でとらえることができる。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けており、その注意点や理由についても深く理解している。	○物質とその変化について、科学的に探究するための観察や実験方法を自ら考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。 ○学習内容について、自ら観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察することができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、テーマに沿って、論理的、かつ効果的に表現することができる。	○学習内容をそれに関する物事・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。 ○自分の学び方を常に振り返りながら創意工夫し、課題を解決することができる。 ○常に学習態度が主体的・対話的であり、より深く学び続けようとする姿勢が見られる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒等の発言などをノートに記録しており、疑問点等について書籍やインターネットなどを用いてさらに詳しく調べようとしている。
ス テ ッ プ	○物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則について深く理解し、自然の物事・現象を科学的な視点でとらえることができる。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けている。	○物質とその変化について、科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による最小限の助力で考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。 ○学習内容について、教師等による最小限の助力で観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察することができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、テーマに沿って、論理的に表現することができる。	○学習内容をそれに関する物事・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。 ○自分の学び方を振り返りながら調整し、学び続けようとしている。 ○学習態度が主体的・対話的であり、課題に積極的に取り組んでいる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどを常にノートに記録している。
	○物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則について理解している。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを、教師等による最小限の助力で行うことができる。	○物質とその変化について、科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による解説や助力を頼りに考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。	○学習内容を正確に理解するために、基礎的・基本的な知識・技能や考察力を身につけようとしている。 ○自分の学び方を振り返り、改善すべき点について考えようとする。

ホ ッ プ		○学習内容について、教師等による解説や助力を頼りに観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察することができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、形式に沿った表現ができる。	○課題や提出物などを、期日までに自分の力でやりきることができる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどをノートに記録し、授業から多くの情報を得ようとする。
-------------	--	---	--

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「新編 化学基礎」 （数研出版）

副教材 「新課程 新編 化学基礎 準拠 サポートノート」 （数研出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

	単元名・学習内容
1 学 期	序章 化学の特徴 第1編 物質の構成と化学結合 - 第1章 物質の構成 - 第2章 物質の構成粒子
2 学 期	第1編 物質の構成と化学結合（続き） - 第3章 粒子の結合 第2編 物質の変化 - 第1章 物質と化学反応式 - 第2章 酸と塩基の反応
3 学 期	第2編 物質の変化（続き） 第3章 酸化還元反応

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習として教科書に目を通し、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておく。
- ・ 授業を大切に積極的に取り組み、復習や定期考査前の学習に役立つよう、丁寧にノートを作る。
- ・ 復習として問題集等を利用し、疑問点や理解できない部分は積極的に質問する。
- ・ 実験は担当教員の指示に従っておこない、記録をとり、報告書（レポート）にまとめる。この際に疑問点、実験の成否についても考察すること。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	- 小テスト - 定期考査	- 定期考査 - レポート - 授業における発表や成果物 - ノート - 長期休業中の課題	- ノート - 振り返りシート、感想 - レポート - 長期休業中の課題 - 自主学習プリント
重みづけ	2	2	1
	化学の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の力を重視して成績をつけます。		

目 標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○生物の特徴やヒトの体の調節、生物の多様性と生態系についての基本的な概念について深く理解し、自然の物事・現象を、科学的な視点でとらえることができる。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けており、その注意点や理由についても深く理解している。	○生物の特徴やヒトの体の調節、生物の多様性と生態系について、科学的に探究するための観察や実験方法を自ら考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。 ○学習内容について、自ら観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察することができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、テーマに沿って論理的、かつ効果的に表現することができる。	○学習内容をそれに関する事物・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。 ○自分の学び方を常に振り返りながら創意工夫し、課題を解決することができる。 ○常に学習態度が主体的・対話的であり、より深く学び続けようとする姿勢が見られる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒等の発言などをノートに記録しており、疑問点等について書籍やインターネットなどを用いてさらに詳しく調べようとしている。
ステップ	○生物の特徴やヒトの体の調節、生物の多様性と生態系についての基本的な概念について深く理解し、科学的な視点でとらえることができる。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けている。	○生物の特徴やヒトの体の調節、生物の多様性と生態系について科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による最小限の助力で考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。 ○学習内容について、教師等による最小限の助力で観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察することができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、論理的に表現することができる。	○学習内容をそれに関する事物・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。 ○自分の学び方を振り返りながら調整し、学び続けようすることができる。 ○学習態度が主体的・対話的であり、課題に積極的に取り組んでいる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどを常にノートに記録している。



ホ ッ プ

○生物の特徴やヒトの体の調節、生物の多様性と生態系についての知識を身につけている。
○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを、教師等による最小限の助力で行うことができる。

○生物の特徴やヒトの体の調節、生物の多様性と生態系について科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による解説や助力を頼りに考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。
○学習内容について、教師等による解説や助力を頼りに観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察することができる。
○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、形式に沿った表現ができる。

○学習内容を正確に理解するために、基礎的・基本的な知識・技能や考察力を身につけようとしている。
○自分の学び方を振り返り、改善すべき点について考えようとする。
○課題や提出物などを、期日までに自分の力でやりきることができる。
○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどをノートに記録し、授業から多くの情報を得ようとする。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「生物基礎」 （実教出版）
副教材 「アクセスノート 生物基礎」 （実教出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学 期	第1章 生物の特徴 ・生物の共通性 ・生物とエネルギー 第2章 遺伝子とその働き ・遺伝情報とDNA
2 学 期	第2章 遺伝子とその働き ・遺伝情報とタンパク質の合成 第3章 ヒトのからだの調節 ・からだの調節と情報の伝達 ・免疫
3 学 期	第4章 生物の多様性と生態系 ・植生と遷移 ・生態系とその保全

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習として教科書を読み、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておくこと。
- ・授業を大切にして積極的に取り組み、復習や定期考査前の学習に役立つよう、丁寧にノートを作る。
- ・復習として問題集等を利用し、疑問点や理解できない部分は積極的に質問する。
- ・実験は担当教員の指示に従っておこない、記録をとり、報告書（レポート）にまとめる。この際に疑問点、実験の成否についても考察すること。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題	・ノート ・振り返りシート，感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	2	2	1
	生物の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」，「思考・判断・表現」の力を重視して成績をつけます。3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために，3観点を同じ重みづけで総括し，成績をつけます。		

目 標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)

(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。(思考力、判断力、表現力)

(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長 の プ ロ セ ス	ジャンプ ○各種目の高度な技を身に付けたり、記録の更新に挑戦したり、仲間に感動を与えられる表現ができる。 ○ゲームのルールや役割に応じた練習方法を工夫し、全員で楽しむためのルールの調整ができる。	○学んだ知識・技能を用いて、自己や仲間の課題解決のために効果的な練習方法を実践することができる。 ○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を合理的・計画的に考察し、自分の考えを持つことができる。	○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイを大切にできる態度が定着している。 ○怪我等を回避するための、適正な運動量や、とるべき行動を認識し、さらに他者への注意喚起を促す言動や行動により健康・安全を確保することができる。
	ステップ ○各種目の技を身に付けたり、記録に積極的に挑戦したり、感情を含めて表現したりすることができる。 ○ゲームのルールを理解し、教師や仲間からの助言をもとに、練習方法を考えることができる。	○学んだ知識・技能を用いて、自己や仲間の状況に応じた適切な練習方法を実践することができる。 ○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を最小限の助言によって理解し、自分なりの考えを持つことができる。	○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイをしようと心がけている。 ○怪我等を回避するための、適正な運動量や、とるべき行動を認識し、健康・安全を確保することができる。
	ホップ ○各種目の技を身に付けようと努力したり、記録に挑戦したり、表現したりすることができる。 ○与えられたルールを概ね理解し、教師や仲間による見本や練習方法をもとに、体力の高め方を理解する。	○教師や仲間の助言があれば、自己の状況に応じた練習方法を実践することができる。 ○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を教師等の個別の解説や助言によって理解し、自分なりの考えを持つことができる。	○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、教師からの助言があれば相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイに取り組む様子がみられる。 ○教師からの助言があれば、怪我等を回避するための、運動量や、とるべき行動を認識し、健康・安全に努める。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「新高等保健体育」 （大修館書店）

副教材 「ステップアップ高校スポーツ」 （大修館書店）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	・体づくり運動 - 選択① 器械運動・ダンス - 選択② 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道
2 学期	・体づくり運動 ・体育理論 - 選択③ 器械運動・ダンス - 選択④ 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道 ・持久走
3 学期	・体づくり運動 ・持久走 - 選択⑤ 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業を大切にして、教師や仲間のアドバイスを聞いて、技能を高める習慣を身につけるようにする。
- ・実技教科のため、欠席をせずに、課題に粘り強く取り組む。
- ・仲間と協力して、練習やゲーム、発表会に取り組む。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・スキルテスト ・ルールテスト ・体育理論テスト	・振り返りシート	・振り返りシート、感想
重みづけ	2	1	1
	実技教科のため、基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」を重視して成績をつけます。		

教科 芸術

科目 音楽 I

対象 各科 1年生 選択者

単位 2

主な授業形態 座学・実技

目 標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などのかかわり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 主体的・協同的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ ○グループ全体を見ながら、獣人に助言をしつつ、課題を完成させることができる。 ○鑑賞で学んだことを、実技でも応用できる。 ○授業で学んだことを、書籍やインターネットも活用して、理解することができる。	○教師による助言を受けずとも、自分の力で課題に取り組むことができる。 ○ノートやワークシートについて、これまでの授業や中学校までの経験を生かして、多角的に取り組むことができる。	○創意工夫をして作品を完成させることができる。 ○様々なジャンルの音楽に振れ、知識の幅を広げたり、深く考えたりできようとする。
	ステップ ○自分の力や友人教師の助言を受けながら読譜し、課題を完成させることができる。 ○現在の課題について、過去の授業と関連付けて理解することができる。	○時間内で課題に取り組み、作品を完成させることができる。 ○ノートやワークシートについて、自分なりの言葉でまとめることができる。	○自分や周りの出している音を注意深く聞き、他者に伝える力を高めようとする。 ○自分の学び方を振り返りながら、学び続けようとする。 ○授業で学んでいる曲を進んで鑑賞している。
	ホップ ○ト音譜表、ヘ音譜表の音符をそのまま読む、もしくは階名を振って読むことができる。 ○授業の内容を、資料を参考にしながら理解できる。	○教師による助言を参考にし、課題に取り組むことができる。 ○ノートやワークシートについて、最低限授業で求められることができる。	○提出物や課題等、やるべきことを期日までに自分でやりきろうとする。 ○自分の学び方を振り返り、直すべきところは改善しようとする。 ○普段から音楽に親しんでいる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「MOUSA1」（教育芸術社）

副教材 「Music Note」（啓隆社）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1学期	歌を歌おう ・校歌及び簡単な独唱、合唱曲を歌う。可能ならグループ学習へ移行。 楽器にふれよう ・鍵盤楽器や簡易な打楽器を演奏する。可能ならグループ学習へ移行。 指揮してみよう ・平易な曲を使用し、基本的な図形を振る。フェルマータを振る。 様々な楽器の音色に親しもう ・鑑賞をすることにより、管楽器や弦楽器の音色に親しむ。楽器の特性を知る。
2学期	一人で演奏しよう ・夏休みの課題を発表する。 表現を工夫してギターのリズムをしよう。 ・「シチリアーナ」の2～3重奏をする。 日本や諸外国の様々な楽器にふれよう ・和楽器や諸外国の民族楽器の音を出してみる。 総合芸術や楽器編成について知ろう ・歌劇や2～4管編成の管弦楽曲等を鑑賞することにより、スコアリーディングをする。
3学期	フランスの作曲家について生涯と作品をたどろう ・ドビュッシーやラヴェル等の生涯をたどりながら、作品の特徴を理解し魅力を味わう。 創作を含めた様々なアンサンブルに取り組もう ・ハンドクラップや合唱奏をグループで取り組む。各グループに応じたアレンジを行う。 ギター以外の弦楽器にふれる ・ヴァイオリンの開放弦を弾き、ボーイングのアップとダウンの違いを知る。

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業時間を大切にして、毎回の授業に熱心に取り組む。
- ・グループ学習は、メンバーと協力して発表に取り組む。
- ・提出物に関しては、締め切りを守って提出する。
- ・器楽、声楽、創作（楽典含む）、鑑賞とまんべんなく取り組むので、苦手意識を減らす。
- ・書籍やインターネットなどを活用し、普段から音楽について深い考察を心がける。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・実技テスト ・鑑賞の感想（ノート） ・ワークシート ・レポート	・実技テスト ・鑑賞の感想（ノート） ・ワークシート ・レポート	・ノート ・自己評価、他己評価 ・ワークシート
重みづけ	2	2	1
	音楽の学習の基礎となる演奏力を高めるために、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2つの観点を重視して成績をつけます。		

目 標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて深く考え、創造的に発想したり、構想を練ったりすることができる。 ○価値意識をもって美術に対する見方や感じ方を深めることができる。	○主体的に美術の幅広い創造活動に取り組んでいる。 ○他人の作品を積極的に鑑賞し、良さや違いを発見し、多様な価値観に気づくことができる。 ○創意工夫をして真摯に製作に取り組み、作品を完成させることができる。
	ステップ	○造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、創造的に発想したり、構想を練ったりすることができる。 ○美術に対する見方や感じ方を深め、意図や目的について考えることができる。	○積極的に美術の幅広い創造活動に取り組んでいる。 ○他人の作品を鑑賞し、良さや違いを発見し、多様な価値観に気づくことができる。 ○創意工夫をして作品を完成させることができる。
	ホップ	○教師による助言を参考にし、創造的に発想したり、構想を練ったりすることができる。 ○身の回りの美術について知り、興味関心を持ち、意義や価値について考えることができる。	○提出物や課題等、やるべきことを期日までに自分でやりきろうとする。 ○他人の作品を鑑賞し、良さや違いを発見することができる。 ○学んだ知識や技法を生かして作品を完成させることができる。

■何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「高校生の美術1」（日本文教出版）

準備物 中学で使った絵の具セット

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	・ 絵画1（よく見て描く） 目の前のモチーフをよく観察し、鉛筆デッサンを描きます。 ・ 絵画2（絵の具で描く） 絵の具を使って絵画を制作します。
2 学期	・ デザイン、立体造形 テーマに沿ってデザインを考え、立体で制作します。
3 学期	・ アニメーション コマ撮りアニメーションを制作します。

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 1つ1つの課題に対して目標と向上心を持って取り組む。
- ・ 授業時間を大切にして、毎回の授業に集中して取り組む。
- ・ 実技教科のため、作品は必ず完成させる。
- ・ 提出物に関しては、期限を守って提出する。
- ・ 絵画、デザイン、立体とまんべんなく取り組むので、苦手意識を減らす。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・ 作品 ・ アイディアスケッチ	・ 作品 ・ アイディアスケッチ ・ ワークシート	・ 授業態度 ・ 準備物 ・ ワークシート
重みづけ	2	2	1
	美術の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得と、発想力や創造性の向上を図るために「知識・技能」「思考・判断・表現」の2つの観点を重視して成績をつけます。		

目 標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。（知識及び技能）
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。（思考力、判断力、表現力）
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。（学びに向かう力・人間性等）

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○基本的な書写能力を習得したうえで、芸術書道としての表現性（古典の表現効果や風趣）を理解し、効果的な表現ができる。 ○書の伝統と文化について、見識を深めることができる。 ○古典における線質、字形、構成等の要素を捉え、創作作品を主体的に制作することができる。	○作品や書のよさを感じ取り、それを言葉で表現し、伝えることができる。 ○自ら心に響く言葉を選定したり、表現したいことを明確にしたりして、その感興に基づき作品の構想を立てることができる。 ○試行錯誤をしながら、より良い作品に仕上げるため変化させることができる。	○様々な活動を通して、知識の幅を広げたり、深く考えたりできる。 ○生活や社会において書が果たしている役割や効用を模索し、それを尊重できる。 ○作品制作において、主体的に取り組み、創意工夫を繰り返すことができる。
ステップ	○基本的な書写能力を習得し、芸術書道の表現性を感じ取ることができる。 ○書の伝統と文化について、理解できる。 ○自らの感興に沿った作品作りができる。	○作品や書のよさを味わい、自分なりの考えを持つことができる。 ○言葉の持つイメージや、表現したいことを伝えることができる。 ○教師や友人からの助言を参考にし、より良い作品に仕上げようとすることができる。	○様々な活動を通して、知識の幅を広げることができる。 ○生活や社会において書が果たしている役割や効用を考えることができる。 ○作品制作において、主体的に取り組み、より良い作品にしようとする態度がみられる。
ホップ	○文字の点画の構成を理解し、用具用材を正しく使い、表現することができる。 ○書の伝統と文化について、興味を持つことができる。 ○資料を参考にしながら、表現したいことを構想に表すことができる。	○作品や書のよさを考えることができる。 ○作品を鑑賞して、自らの感想や考えを述べることができる。 ○教師からの助言を理解し、作品制作に生かすことができる。 ○与えられた課題に対し、真摯に取り組むことができる。	○提出物や課題等、やるべきことを期日までに自分でやりきろうとする。 ○生活や社会の中で書がどのような場面で用いられているか考えることができる。 ○作品制作において、自分の表現を振り返り、学んだ知識と技能を生かして作品を完成させることができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「書道Ⅰ」（教育出版）

準備物 太筆

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	【漢字の書】楷書の学習 「九成宮醴泉銘」、「孔子廟堂碑」、「雁塔聖教序」、「顔氏家廟碑」の臨書 ・書風の違いを味わい、用筆・運筆法を身につける。 楷書の作品を創作しよう ・学んだ古典の特徴を生かし、創作する。
2 学期	【漢字の書】行書の学習 「蘭亭序」、「風信帖」の臨書 ・行書の特徴を知り、基本的用筆法を身につける。 ・書風の違いを味わい、表現する。 【篆刻】 自刻印を制作しよう ・篆書体の特徴を理解し、草稿をつくる。 ・印刀などの用具を正しく使い、印を彫る。
3 学期	【仮名の書】 「蓬萊切」「高野切第3種」の臨書 ・仮名の基本的用筆法を学び、平仮名、変体仮名を書く。 ・連綿の特徴を学び、連綿のある語句を書く。 ・古筆の良さを味わいながら臨書する。 【漢字仮名交じりの書】 オリジナルカレンダーの制作 ・これまでの学習で学んだことを生かし、個性を生かした表現で創作する。

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業時間を大切に、毎回の授業に熱心に取り組む。
- ・一つ一つの課題に対して目標と向上心を持って取り組む。
- ・実技教科なので、作品は必ず仕上げ提出する。
- ・日常生活の中で見られる書について関心を持ち、深い考察を心がける。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・作品 ・ワークシート	・作品 ・草稿、デザインアイディア ・ワークシート ・鑑賞シート	・授業態度 ・ワークシート ・感想、自己評価
重みづけ	2	2	1
	書道の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得と、発想力や創造性の向上を図るために、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2つの観点を重視して成績をつけます。		

目 標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考え方などを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。**(知識・技能)**
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。**(思考・判断・表現)**
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。**(学びに向かう力・人間性等)**

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ ○登場した英単語や文法事項を場面や状況に応じて正しく使用することができる。 ○積極的に発音や音読に取り組み、正しい発音やアクセントを身につけており、間違いがあれば気付いて修正することができる。	○学んだ知識を用いて、題材となっているテーマについて正しく読み取ったり聞き取ったりすることができる。 ○読んだり聞いたりしたことをもとに、与えられたテーマについて発表用の原稿などを正しく書くことができる。	○自ら興味関心を持って、題材となっているテーマについて調べたり、自らと関連付けて考察したりすることができる。 ○積極的に学んだことを発表しようとしたり、自ら相手と考察を共有しようとしたりすることができる。
	ステップ ○登場した英単語や文法事項を、例文等を参考にして目的や場面に応じて使用することができる。 ○教員の指示があれば、積極的に発音や音読に取り組むことができ、正しい発音やアクセントを身につけることができている。	○学んだ知識を用いて、題材となっているテーマについて読み取ったり聞き取ったりすることができる。 ○教員の指示があれば、読んだり聞いたりしたことをもとに、与えられたテーマについて発表用の原稿などを書くことができる。	○教員の指示のもと、題材となっているテーマから学んだことを、興味関心を持って考察したり、自らの話題として深めたりすることができる。 ○教員の指示があれば、学んだことを発表したり、相手と考察を共有しようとしたりすることができる。
	ホップ ○多少の誤りはあるが、登場した英単語や文法事項を目的や場面に応じて使用することができる。 ○教員の指示があれば、発音や音読に取り組むことができ、正しい発音やアクセントを身につけようとしている。	○多少の誤りはあるが、学んだ知識を用いて、題材となっているテーマについて読み取ったり聞き取ったりすることができる。 ○教員の支援があれば、読んだり聞いたりしたことをもとに、与えられたテーマについて簡単な文を書くことができる。	○教員の指示のもと、題材となっているテーマから学んだことについて調べたり、自らの話題として考えたりしようとしている。 ○学んだことを相手に伝えたり、考察を共有しようとしたりする姿勢がみられる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「Power On English Communication Ⅰ」（東京書籍）

副教材 「チャンクで英単語 Standard」（三省堂）、「BIG DIPPER」（数研出版）

「WORKBOOK Power On English Communication Ⅰ」（東京書籍）

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	Lesson 1 Japan's New Tourism - 外国からの観光客に人気の体験型ツーリズムについて学ぶ。（動詞の現在形・過去形，進行形，助動詞＋動詞の原形） Lesson 2 Light from Creatures - 生き物が光る理由や，その光が医療研究に利用されていることを学ぶ。（受け身，現在完了形，現在完了進行形） Lesson 3 Routes to the Top - スポーツクライマーである野口選手インタビュー。（動名詞，不定詞，S+V+O [that 節]） Lesson 4 Left to Right, Right? - 日本のマンガの形式やその翻訳に関する留学生による発表。（後置修飾の現在分詞・過去分詞，比較級・最上級）
2 学期	Lesson 5 Banana Paper - ザンビアのバナナの茎から作られるバナナペーパーへの日本の伝統技術貢献に関する講義。（関係代名詞（主格），関係代名詞（目的格），S+seem+to 不定詞） Lesson 6 Patterns in Human Behavior - 人間の興味深い行動パターンに関する実験の手順や結果を解説する雑誌記事。（It+be 動詞＋形容詞＋that 節，S+V [be 動詞以外+C]，S+V+O+C [形容詞]） Lesson 7 No Plastic or No Future - プラスチックがもたらす環境破壊に関する論説文。（関係副詞where，関係副詞when，関係代名詞what） Lesson 8 Oh My Cod! - イギリス人ALT によるフィッシュ・アンド・チップスの歴史と食料資源に関する発表。（現在分詞の分詞構文，関係代名詞の非制限用法，過去完了形）
3 学期	Lesson 9 Is E-sports a Real Sport? - 世界中の若者の間で人気が出てきているe スポーツの実況中継。（S+V [知覚] +O+ [現在分詞，原形不定詞]，S+V [使役] +O+C [原形不定詞]，S+V+O₁+O₂ [if などの節]） Lesson 10 Being Different Is Beautiful - 写真家ヨシダナギさんに関する雑誌記事。（wish＋仮定法過去の節，仮定法過去のas if 節，仮定法過去のif 節） *実際の授業は種々の都合によりこの通りに行われないことがある。

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- 予習として、教科書を読んでわからないところを見つけておく。
- 自分の課題やできるようにになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- 板書を写し取るだけでなく、自分の考えや疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、復習に役立つような工夫したノートづくりをする。
- 提出物は丁寧に仕上げて、期限を守って提出する。
- 英語で日記をつける、英語の歌を覚えて歌う、興味のある分野について英語の記事を読む等、授業以外でも英語を使う機会を作ってみる。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	- 小テスト - 定期考査	- 定期考査 - レポート - 授業における発表や成果物 - ノート - 長期休業中の課題	- ノート - 振り返りシート、感想 - レポート - 長期休業中の課題 - 授業における発表や成果物
重みづけ	2	2	1
	英語学習の基礎となる「知識・技能」、「思考・判断・表現力」の確実な習得を図るために、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目 標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする（知識及び技能）
- (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。（思考力、判断力、表現力）
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。（学びに向かう力・人間性等）

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ ○人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的なことを理解し、生活の中で活かすことができる。 ○生活に係る技能が身に付き、適切に使うことができる。	○家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現することができる。	○周りの人々と協働し、よりよい社会を目指し、地域社会で活動しようとする。 ○自分の家族・家庭や地域の生活に主体的に関わり、よりよく生活できるよう考え、行動できる。
	ステップ ○人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的なことがおおむね理解でき、生活の中で活かすことができる。 ○保育や介護、衣食住に係る技能を学習したのと同じような場面であれば、適切に使うことができる。	○提示された例を参考に、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現できる。	○自分の家族・家庭の生活に関わり、よりよく生活できるよう考え、行動しようとする。 ○課題等やるべきことを、期限までに自分でする。
	ホップ ○人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的なことを知り、教師等による解説や助力を頼りに、おおむね理解できる。 ○保育や介護、衣食住に係る技能を学習したのと同じような場面であれば、周囲の助言があれば適切に使うことができる。	○提示された例を参考に、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、教師等による解説や助力を頼りに解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて表現できる。	○課題等やるべきことを、期限までに自分でやりきろうとする。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「図説 家庭基礎」 （実教出版）
副教材 「図説家庭基礎 学習ノート」 （実教出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ 自分らしい生き方と家族 ・人の一生と家族・家庭 ・青年期の自立と家族・家庭 衣生活をつくる ・衣生活と健康 ・小物製作
2 学期	子どもとかかわる ・子どもの生活と保育 高齢者とかかわる ・高齢期の生活と福祉 社会とかかわる ・共生社会と福祉 食生活をつくる ・食生活と健康
3 学期	食生活をつくる ・調理実習 住生活をつくる ・住生活と住環境 経済的に自立する ・生活における経済の計画 消費行動を考える ・消費行動と意思決定 ・持続可能なライフスタイル と環境

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業で学ぶ知識や技術を自分の生活に活かせるように、常に自分自身の生活を振り返り課題を見つけながら学習する。
- ・作品製作やレポートには計画的に取り組み、期限内に必ず提出する。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や作品 ・ノート ・長期休業中の課題 （ホームプロジェクト）	・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・実習態度 ・長期休業中の課題 （ホームプロジェクト）
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目 標

看護の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護の基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する基礎的な技術を身に付けるようにする。(知識及び技術)

(2) 看護に関する基礎的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力, 判断力, 表現力)

(3) 基礎看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、日常生活の援助及び診療に伴う援助における看護の課題解決に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技術	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
ジャンプ	○日常生活の援助及び診療に伴う援助に関する知識を習得している。 ○看護する対象に必要な技術を習得している。 ○看護の対象となる人々の安全・安楽な援助方法を習得している。	○看護に関する多様な課題を発見することができる。 ○職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に問題解決する力を身につけている。	○習得した知識と技術を適切に活用できるようにしている。 ○看護の課題解決に主体的に取り組む姿勢を身につけている。
ステップ	○看護の意義・看護の役割と機能・看護の対象について根拠となる法令や理論を理解している。 ○対象者の状態に応じた日常生活の援助方法を習得している。	○医療保健福祉に関連する時事を読み、理解することができる。 ○看護職に求められる倫理感を身につけている。	○よりよい看護の実践を目指して自ら学ぶ力を身につけている。
ホップ	○看護の社会的な役割や機能とそれに伴う責任を歴史的な経緯を含めて理解している。 ○協働する専門職・看護における倫理・コミュニケーション・安全管理について理解している。 ○感染予防について理解している。 ○日常生活の援助について自らの生活と結び付けながら理解している。	○科学的根拠を踏まえた安全で安楽な援助について考察できる。 ○学習内容を日常生活場面のなかで活用することができる。 ○学習内容を教師等の助言があれば文章で表現することができる。 ○自分の考えを相手に伝えることができる。	○自分の学び方や取り組み方を振り返り、より学習内容を理解するために必要なことに気づき、改善しようとしている。 ○学習内容と自分の進路との関連について考え、教師の助言で進路実現に学習に取り組むことができる。 ○課題や提出物などを期日までに自分の力でやりきることができる。

■何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「基礎看護」文部科学省「看護の基本となるもの」日本看護協会

副教材 「系統看護学講座 専門1基礎看護学【2】基礎看護技術Ⅰ」医学書院 「系統看護学講座 専門1基礎看護学【3】基礎看護技術Ⅱ」医学書院「看護がみえる Vol.1 基礎看護技術」メディックメディア「看護がみえる Vol.3 フィジカルアセスメント」メディックメディア「よくわかる看護職の倫理綱領」照林社「パワーアップ問題演習 基礎看護学」医学芸術社

■1年間の学習計画

単元名・学習内容		
1学期	単元名：看護の本質 (1) 看護の意義 (2) 看護の役割と機能 (3) 看護の対象 (4) 協働する専門職 (5) 看護における倫理	単元名：看護の共通技術 (1) 感染予防（手洗いを含む） 単元名：日常生活の援助 (1) 日常生活の理解 (2) 環境調整 (3) 食事と栄養 (4) 排泄の援助
2学期	単元名：看護の共通技術 (1) コミュニケーション (2) 感染予防（院内感染の予防, 予防策）	単元名：日常生活の援助 (1) 活動・運動 (2) 休息と睡眠 (3) 身体の清潔 (4) 衣生活
3学期	単元名：看護の共通技術 (1) 安全管理	単元名：看護の共通技術 (1) フィジカルアセスメント （検温表の記載, バイタルサイン測定を含む）

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・（予習）教科書を読み、疑問点をチェックする。
- ・（授業）積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に先生に質問する。あるいは、休み時間・放課後などを利用して質問するなど早めに解決する。
- ・（復習）授業内容の範囲について、教科書を読み返し、辞書を引くことを習慣化する。提出物は丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。
- ・指定の技術についてはチェックリストを用いて反復練習をし、技術チェックを受ける。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・定期考査 ・小テスト ・看護技術テスト	・定期考査 ・レポート 「看護の基本となるもの」 「よくわかる看護職の倫理綱領」 ・授業における発表や成果物 技術日誌	・出席状況 ・授業態度 ・グループワークでの取り組み ・振り返りシート、感想 ・課題等の提出状況
重みづけ	2	1	1
	看護の学習の基礎となる基本的な知識・技術の確実な習得を図るために、「知識・技術」を重視して成績をつけます。		

目 標

看護の見方・考え方を働かせ、人体の構造と機能に関する実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護の基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 人体の構造と機能について体系的・系統的に理解する。(知識及び技術)
- (2) 人体の構造と機能に関する生活行動や健康の基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 人体の構造と機能について、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

		知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○人体の構造と機能を統合して生活行動と関連させて理解することができる。 ○食事療法の必要性について理解できる。	○人体の構造と機能を統合して生活行動と関連させ、健康の保持増進に関する考察ができる。 ○疾患に応じた食事療法について理解できる。	○人体の構造と機能を統合して生活行動と関連させ、人々の健康の保持増進について自ら学び主体的に取り組むことができる。 ○食事療法を行う際の看護の留意すべき点について考えることができる。
	ステップ	○器官の構造と機能について理解することができる。 ○各ライフステージにおける身体的・生理的特徴について理解することができる。	○器官の機能と生活行動を関連付けて考えることができる。人体の構造と機能がどのように生活行動について考えることができる。 ○各ライフステージにおける食生活で起こりやすい問題について考えることができる。	○人体の構造と機能について考え、生活行動や健康の基本的な課題を発見することができる。 ○各ライフステージで事例を用いてその対処法を考察する学習法を取り入れることができる。
	ホップ	○人体の構造や機能について理解することができる。 ○主な栄養素の性質や体内での働きを理解できる。	○人体の構造や機能について生活行動と関連させることができる。 ○栄養素の性質や働きについて、食品成分表などを使用して食品群と関連させて理解することができる。	○人体の構造や機能が生活に与える影響について考察することができる。 ○栄養素の特徴を踏まえて、現代の食生活の現状と課題について考えることができる。

■何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」（医学書院）
 副読本 「看護学生のための解剖生理よくわかる BOOK」（メヂカルフレンド社）
 「オールガイド食品成分表」実教出版
 「新看護学3 薬物と看護 食生活と栄養」医学書院

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容		
1 学期	単元名：解剖生理学のための基礎知識 単元名：呼吸と血液のはたらき（呼吸） 単元名：栄養の消化と吸収（第2章）	単元名：栄養、食生活と看護 単元名：栄養素の種類とはたらき
2 学期	単元名：身体の支持と運動 単元名：体表からみた人体の構造 単元名：血液の循環とその調節	単元名：栄養素の消化・吸収・代謝 単元名：エネルギー摂取と消費
3 学期	単元名：呼吸と血液の働き（血液） 単元名：身体機能の防御と適応	単元名：病院食 単元名：栄養食事療法

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・（予習）教科書を読み、疑問点をチェックする。
- ・（授業）積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に先生に質問する。あるいは、休み時間・放課後などを利用して質問するなど早めに解決する。
- ・（復習）授業内容の範囲について、教科書を読み返し、辞書を引くことを習慣化する。提出物は丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・ 定期考査 ・ 小テスト	・ 定期考査 ・ レポート ・ 授業における発表や成果物	・ 出席状況 ・ 授業態度 ・ グループワークでの取り組み ・ 課題等の提出状況
重みづけ	2	1	1
	看護の学習の基礎となる基本的な知識・技術の確実な習得を図るために、「知識・技術」を重視して成績をつけます。		

科目 疾病の成り立ち
と回復の促進

対象 1年生 看護科

単位

1

目 標

看護の見方・考え方を働かせ、疾病の成り立ちと回復の促進に関する実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護の実践に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 疾病の成り立ちと回復の促進について体系的・系統的に理解するようにする。(知識及び技術)
- (2) 疾病の成り立ちと回復の促進に関する基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 疾病の成り立ちと回復の促進について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、多様な人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○疾病の原因や基本的な病因より課題を発見し、生体の回復を促す方法について自分の考えを文章で表現することができる。 ○教師などの助言があれば、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的な思考で解決する方法を表現することができる。	○他教科で学ぶ医学看護の専門的知識と結びつけることができる。 ○常に創意工夫し、課題を解決しようとする。 ○看護職として働くことを意識しながら学習に取り組むことができる。 ○よりよい看護の実践を目指して自ら学び、社会の変化に対応した生活の向上に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。
	ステップ	○教師などの助言があれば、疾病の原因の発生、生体の回復過程、基本的な病因の機序を図示することができる。 ○教師などの助言があれば、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的な思考で討議・議論することができる。	○医学看護専門用語や技術・考察力を日常生活と関連付けて学ぼうとしている。 ○学び方や取り組み方を改善し、学び続けようとする。 ○学習態度が主体的・協働的に取り組む態度で学び続けようとしている。
	ホップ	○教科書の医学看護専門用語を正確に読み書きすることができる。 ○教師などの助言があれば、疾病の原因と生体の回復、基本的な病因について、人体の構造と機能と関連していることに気づくことができる。 ○教師などの助言があれば、疾病の原因の発生、生体の回復過程、基本的な病因の機序について、基本的な課題を知ることができる。 ○教師などの助言があれば、看護の職業倫理を踏まえて合理的な思考で討議・議論することができる。	○基礎的・基本的な医学専門用語の知識や技術・考察力を身につけようとしている。 ○学習内容を正確に理解するために学び方を改善しようとする。 ○学習態度が主体的で、提出物などを期日までに自分の力でやることができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「新看護3 疾病のなりたち」（医学書院）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	単元名：病態生理学を学ぶための基礎知識 単元名：皮膚・体温調節のしくみと病態生理
2 学期	単元名：免疫のしくみと病態生理
3 学期	単元名：体温調節のしくみと病態生理

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・（予習）教科書を読み、疑問点をチェックする。
- ・（授業）積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に先生に質問する。あるいは、休み時間・放課後などを利用して質問するなど早めに解決する。
- ・（復習）授業内容の範囲について、教科書を読み返し、辞書を引くことを習慣化する。提出物は丁寧に仕上げて、期限を守って提出する。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・ 定期考査 ・ 小テスト	・ 定期考査 ・ レポート ・ 授業における発表や成果物	・ 出席状況 ・ 授業態度 ・ グループワークでの取り組み ・ 課題等の提出状況
重みづけ	2	1	1
	看護の学習の基礎となる基本的な知識・技術の確実な習得を図るために、「知識・技術」を重視して成績をつけます。		

目 標

看護の見方・考え方を働かせ、看護情報に関する実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護の実践に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 看護情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
(知識・技術)
- (2) 看護情報に関する基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考・判断・表現)
- (3) 看護情報について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の健康に関する課題解決に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(主体的に学習に向かう態度)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ジャンプ	○情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任を理解している。 ○情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解している。 ○アルゴリズムを表現する手段、プログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法を理解し、技術を身につけている。	○情報社会における問題や課題を正しく理解し、その解決策を自分なりに工夫することができる。 ○情報セキュリティの確保に向けて、目的に応じた適切な方法を選択することができる。 ○自分の意見や考えを、情報機器を活用して視覚的にわかりやすく伝えることができる。 ○問題解決の手順を論理的に考えることができる。	○情報社会に主体的に参画しようとしている。 ○情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。 ○よりよいコミュニケーションを行うために、自らの取り組みを評価・改善できる。 ○問題解決に情報機器を積極的に活用し、自ら結果を振り返って改善しようとしている。
ステップ	○情報社会と人間との関わりについて考え、情報と情報技術の活用の意義を理解している。 ○情報に関する法規や制度、情報セキュリティとは何か、どのようなものであるかを理解している。 ○情報デザインの考え方について、十分に理解している。 ○アルゴリズムをフローチャートなどで表現する技術を身につけている。	○情報セキュリティに関して、何が問題であるかを考えて、その対策を発見することができる。 ○仲間やグループの中での協働によって、自分の意見や考えを整理することができ、情報機器を活用して適切に資料を作ることができる。 ○目的に応じたアルゴリズムを考えて、適切な方法で表現することができる。	○情報社会における問題の発見・解決に、情報と情報技術を適切に活用している。 ○情報モラルに配慮して、よりよいコミュニケーションを行おうとしている。 ○情報伝達のために、コンテンツ制作の個人技能を高めようとしている。 ○生活の中で使われているプログラムを見出して、自分なりに考え工夫して活用しようとしている。
ホップ	○情報化が進展する社会の特質について説明することができる。 ○情報に関する法規や制度、情報セキュリティなどの基本的なものを暗記している。 ○身近で具体的な情報デザインの例を基に、情報機器を操作する技能を身につけている。 ○関数の定義・使用により、プログラムの構造を整理する技術を身につけている。	○情報の特性を活用した事例と、それによって生じる事例を挙げることができる。 ○情報セキュリティの脅威に対する対策について、説明することができる。 ○報告者やレポートの目的に対して、体裁を考え、わかりやすい資料を作成し報告できる。 ○簡単なアルゴリズムを文章やフローチャート等の図で表現できる。	○社会の中の情報システムについて、興味・関心を持っている。 ○情報セキュリティに対して、リスクを軽減するための対策を行おうとしている。 ○わかりやすい報告者やレポートを作成するため、自ら進んで工夫しようとしている。 ○問題解決のためのアルゴリズムを、教師の助言のもと考えようとしている。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

	単元名・学習内容
1 学期	単元名：タイピング TR 機器の説明等 単元名：タイピング TR 保存等基本的によく使う動作の説明 単元名：ビジネス文書の作成 ワードの使い方 ※ワード実技テスト
2 学期	単元名：エクセル基本的な動作 単元名：グラフの作成 ※エクセル実技テスト
3 学期	単元名：パワーポイント基本的な動作 単元名：プレゼンテーション ※パワーポイント実技テスト

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ソフトウェアやインターネットなどを活用して、問題や課題と向き合う。
- ・情報機器の仕組みを理解して積極的に活用し、生活の中で利用できる操作や技術を身につける。
- ・仲間やグループで話し合いや意見交換を行い、自身の考えと他者の考えを比較・検討する態度を持つ。
- ・新聞やインターネットなどのメディアに積極的にふれ、社会事象に興味・関心を持つ。
- ・日常生活において、個人情報やセキュリティに対して注意深く考える習慣を持つ。
- ・色々な場面の小さなことでも、創造力を生かした発想や論理的に物事を考える習慣を大切にする。
- ・提出物は丁寧に仕上げ、提出期限を守る。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・ 定期考査 ・ 小テスト ・ 機器操作のテスト	・ 定期考査 ・ レポート ・ 授業における発表や成果物 ・ 学習ノート	・ 学習ノート ・ 振り返りシート、感想 ・ レポート ・ 機器操作への取り組み ・ 課題等の提出状況
重みづけ	2	2	1
	現代の情報社会において必須となる基本的な科目です。3つの資質・能力をバランスよく身につけていくなかで、実践的な技術が必須になる科目であること、課題に向き合う際の思考力、収集した情報を効果的に伝える表現力が重要視されることを踏まえ、知識・技術、思考・判断・表現に重きを置いて成績をつけます。		

1 年 組 番	氏名
---------	----